

氏名 (敬称略)	設問 質問6 上記1～5までの質問に関連して補足のご意見がありましたら、お聞かせください。(800字程度まででお願いします)
あらいしょうご 荒井 正吾 (無所属)	<p>「1. 奈良県福祉医療制度の改善等」に関して</p> <p>医療費助成制度について現物給付方式を行った場合、国民健康保険の国庫負担金が減額されることになっていますが、国が未就学児までを対象にこの減額措置を廃止したことに伴い、未就学児までを対象に現物給付方式を導入することになりました。</p> <p>国民健康保険の運営にとって国庫負担金の確保は極めて重要であることから、現物給付方式の拡大にあたっては、国の減額措置が廃止される必要があると考えます。</p> <p>また、医療費の窓口負担については、各医療保険者からの意見も踏まえたうえで、制度設計者である国の責任において、必要な医療へのアクセスが阻害されないよう、低所得者に十分配慮した制度のあり方を検討することが重要と考えます。</p> <p>「2. 奈良県国保の制度運営等」に関して</p> <p>国保の制度運営に関しては、国が平成28年12月の社会保障制度改革推進本部決定により確約した財政支援が、今後も確実に実施されることが必要です。また、わが国では社会保障に係る公費負担を将来の国民にツケ回している中で、安易に負担を国民の税に求めるのではなく、給付の水準が適正かどうか検証して、受益と負担を地域においていかに均衡させるかが重要であると考えます。</p> <p>地域別診療報酬の議論は、提供される医療による受益と、医療費である負担の関係をどのように考えるかということだと思います。医療費の地域差が生じている中で、受益と負担の適正化を図っていくべきです。しかし、診療報酬の上げ下げありきではなく、無駄をなくして地域医療をよくしていきたいというのが私の考えです。</p>
かわしま みのる 川島 実 (無所属)	(記述回答はありませんでした)
まえかわ 前川 きよしげ (無所属)	<p>問6及び7</p> <p>①【がん対策】</p> <p>今やがんは特別な病気ではありません。日本人の2人に1人はがんにかかります。そして、がんは早期に発見できたなら、恐い病気ではなくなりつつあります。したがって、命を守るために、がん検診を受けることが重要です。</p> <p>それなのに奈良県民のがん検診受診率は全国平均を大きく下回っています(肺がんの場合、全国平均は46.2%、奈良県は38.5%)。</p> <p>そこで、がん検診受診の広報を徹底するとともに、胃がん、肺がん、大腸がん、子宮頸がん、乳がんに関して、40歳以上なら無料で検診を受けることができるクーポン券を発行します。</p> <p>②【医師、医療従事者の確保】</p> <p>奈良県立医科大学の卒業生のうち約4割は県外の病院へ就職しています(平成30年は38.6%)。よって、「医師不足」が生じないよう「地域枠」を拡大し、奈良県内に十分な医療提供体制を構築します。</p> <p>医療従事者の県外流出を加速する「地域別診療報酬」は導入しません。</p> <p>③【国民健康保険料】</p> <p>低所得者、低年金者の国民健康保険料を軽減します。</p> <p>④【妊産婦、乳児の健康検診無償化と不妊治療への助成】</p> <p>健やかな妊娠、出産、成長を社会全体で支えるために、妊産婦、乳児の健康検診の本人負担を0円にするとともに、不妊治療のための費用を助成します。</p>

※氏名50音順で掲載しました。

※アンケートは、2019年3月12日に送付し、3月18日正午を期限として回答をお願いしました。期限後の到着分も掲載しました。

※このほかにも、より長文枠の自由記述による回答もお願いしました。別途掲載します。